

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題5 個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善・充実」

I. 学校名 広尾町立豊似小学校

II. 研究の概要

1. 研究主題

「進んで学習に取り組み、自分の中で確実な理解を目指す子どもの育成
～学びの基礎を育む指導のあり方～

2. 研究主題設定の理由

学習指導要領は、子どもたちの現状をふまえ、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視している。

学校においては、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。

本校の目指す児童像の1つは、「すすんで学ぶ子」である。そのためには、確かな学力の定着を図る指導の工夫・改善が重要な課題となる。

また、各種の学力調査や教職員アンケート等の結果から、本校児童の学習の実態として、「基礎基本の定着が不十分」という課題が見られている。

これらのことから、「基礎的・基本的な学力を確実に身に付けた児童」を育むことを目指して、本研究主題を設定した。

III. 実践例

1 実践テーマの趣旨

ここ数年、様々な学力調査の結果や本校教員のアンケート結果から、児童の実態として「基礎・基本の定着が不十分」という課題がみられている。

これらのことを踏まえ、研修部では下記のように考えた。

2 実践内容

(1) 学力向上に向けての手立て

- | |
|-----------------------|
| ① 指導力向上のための研究授業 |
| ② 基礎・基本の確実な定着を図るための実践 |
| ③ 家庭学習の確立を図るための実践 |
| ④ 体力向上のための取組 |
| ⑤ 実践の検証・改善 |

これは、2～3ヶ月のスパンで PDCA サイクルによる実践の検証・改善を図るシステムである。

3 実践の概要

(1) 学力向上に向けての手立て

①指導力向上のための研究授業

「基礎的・基本的な学力を確実に身に付けた児童の育成」のために、今年度、校内研究では、「論理的に筋道を立てて考える子」の育成に取り組んでいる。

本研究で、「論理的に筋道を立てて考える」とは、

- ①キーワードを見つける・使っている
- ②順序立てて説明をする
- ③根拠をもとに結論を発表する

とおさえた。

授業で、この3点を使った説明・発表ができるような子どもの指導のあり方を研究し、指導力向上に取り組んでいる。

(2) 基礎・基本の確実な定着を図るための実践

① 全学年共通の学習常規

学習に臨む姿勢、学習態度を身に付けさせるため、全学年で共通した指導を徹底している。

ア、学習の約束(教室に掲示する) *低学年はひらがな表記で掲示

- ・休み時間に、次の学習の用意をする。
- ・チャイムで席に着く。
- ・名前をよばれたら、「はい」と返事をする。
- ・相手に聞こえる声で話す。
- ・相手を見て最後までしっかり聞く。

イ、筆記用具について

学習に集中できるように、担任が替わっても混乱しないように、持ち物についても指導している。



- ・先のとがった鉛筆5～6本
 - ・赤鉛筆(赤ペン)1本
 - ・消しゴム1個
 - ・定規1本
 - ・その他 授業に必要なもの
- *学習に必要なものは持ってこない

② 国語・ふりかえりの5分

- ・授業の導入時に5分程度、原則として毎回、既習漢字の復習又は前時教材の音読を行う。
- ・授業の終末時には、その授業の学習内容の定着のため振り返りを行う。

③ 算数・ふりかえりの5分

- ・授業の導入時に5分程度、原則として毎回、前時の復習又は四則計算に取り組む。
- ・授業の終末時には、その授業の学習内容の定着のため振り返りを行う。

④ 朝読書

- ・週2回、10分間の朝読書を行っている。
- ・読書環境を整えるため、町の図書館の長期貸出を利用するなどし、教室に本を置く。

(3) 家庭学習の確立を図るための実践

① 毎日家庭学習（宿題含む）に取り組ませる。

- ・時間の目安としては、**10分×学年**。
- ・宿題だけではなく、児童自らが課題を見つけ、それに取り組むことができるような家庭学習のやり方を学年で段階的に指導する。

(4) 体力向上のための取組

① 「ランニングやなわとび」を中心とした、持久力をつけるための体力づくり

- ・持久力の向上が集中力や姿勢保持につながると考え行っている。
- ・体育の授業の時間の中で、5～10分間程度、「ランニングやなわとび」を中心とした体力づくりをする。
- ・各学年・各学級の実態に応じた距離を設定し、同じ距離を学期に1回、計3回走り、タイムを計る。記録をもとに体力向上の取組を検証している。
- ・「ランニング」「なわとび」は全学年取り組み、他の体力づくりのメニューは各学年・ブロックの発達段階に応じたものを設定し、各担任に一任する。
- ・体力づくりのメニュー例は以下の通り



ランニング・なわとび(その場で、走りながら)・前屈・あざらし・逆立ち(かべ)・柔軟・ブリッジ・腹筋・背筋・サイドステップ・腕立て・手押し車(2人1組)・・・など。

(5) 実践の検証・改善

① PDCA サイクル

- ・P【Plan 計画】→D【Do 実施】→C【Check 点検】→A【Action 改善】のサイクルで授業改善そして校内研究の推進を図っていく。

② 様々な学力調査の分析

- ・全国学力・学習状況調査
- ・教研式 標準学力検査(GRT)
- ・単元テスト(教科)
- ・『学力向上に向けての手立て』チェック表

4 実践の検証と今後の取組

(1) 全国学力・学習状況調査

- ・6学年一人ひとりの結果をもとに、担任ができていないところを中心にそれぞれ

指導する。

- ・国語 A・B や算数 A・B などの全体的な傾向は、各学年に関連する領域を示して、各担当がそれを生かし指導する。

算数 A・B から課題の見た各学年の領域

領域	「数と計算」(大まかな内容)	「数量関係」(大まかな内容)
1年生	2位数～3位数、加法、減法など	数の大小や順序、絵や図など
2年生	4位数、簡単な分数、加法、減法、乗法九九など	数量を分類整理、表やグラフなど
3年生	万の単位、小数、分数、小数・分数の加法・減法、除法など	資料を分類整理、棒グラフなど
4年生	億、兆の単位、小数の乗法・除法、分数の加法・除法など	四則の混合した式や()を用いた式、折れ線グラフなど
5年生	偶数、奇数、約数、倍数、分数の乗法・除法など	比例の関係、百分率、円グラフや帯グラフなど
6年生	逆数、小数や分数の計算など	比例・反比例の関係、文字を用いるなど

(2) 教研式 標準学力検査(CRT)

個々の児童の観点別で弱いところは、放課後学習や長期休業中の学習サポートで補っている。

(3) 単元テスト

全学年平均 85%以上の正答を目指し、できるまで取り組む。

(4) 『学力向上に向けての手立て』チェック表

『学力向上に向けての手立て』チェック表 結果
2016年8月18日(木) 研修部

≪ 1 学期 1 回目と 2 回目の結果 ≫

	ねらい	具体的な手立て	2回目の結果 7月15日	1回目の結果 5月27日
(1)	指導力の向上	①単元のキーワードを見つけたり、使って説明できるよう、意識的に指導しているか。	4. 14	2. 66
		②自分の考えを順序立てて説明できるよう、意識的に指導を行っているか。	3. 71	2. 83
		③根拠をもとに結論を発表することができるよう、意識的に指導を行っているか。	3. 85	2. 66
(2)	基礎・基本の確実な定着を図るための実践	①学習常規を日常的に指導していますか。	4. 00	3. 42
		②授業の冒頭に、毎時5分間の漢字学習を行っていますか。	4. 83	4. 66
		③音読を意図した授業を行っていますか。	4. 33	3. 83
		④授業の冒頭に、毎時5分間の前時の復習、または四則計算の学習を行っていますか。	4. 50	3. 83
		⑤毎週火曜「朝読書」の日を含め、週2日以上朝読書に取り組んでいますか。	5. 00	4. 66
(3)	家庭学習の確立を図るための実践	①毎日、宿題や家庭学習に取り組まっていますか。	4. 66	4. 66
(4)	体力の向上	①体育の授業で「ランニングやなわとび」を中心とした体カづくりに取り組んでいますか。	4. 25	4. 00
(5)	実践の検証・改善	①PDCAサイクルを意識し、授業改善に役立っていますか。	3. 14	3. 28

左のチェック表で、2～3ヶ月に1回、職員一人ひとりが日頃の実践の検証を行っている。これは、1学期に2回検証を行った結果を比較したものである。

年間5回行う予定で、各「手立て」平均4以上の到達を目指している。